

# 均一に保温、早期脱型

## 気泡緩衝シート コンクリート養生向け改良 東川上産業

土木資材商社の東宏（札幌市東区、小林雅彦社長）と梱包シートメーカーの川上産業（名古屋市中村区、川上肇社長）が共同開発したコンクリート養生シート「モイスチャータックプチ（MTP）」が、国土交通省の

新技術情報提供システム「NETIS」に登録された。MTPは梱包（こんぽう）などに使われる気泡緩衝シート（プチプチシート）を改良したもので、打設後のコンクリート面に貼り付けるだけ

で、水分の逸散抑制と保温効果がある。型枠を早期に外すことも可能で工期の短縮にもつながる。東宏は今後、トンネルや橋脚の工事だけでなく、建築工事にも売り込む方針。

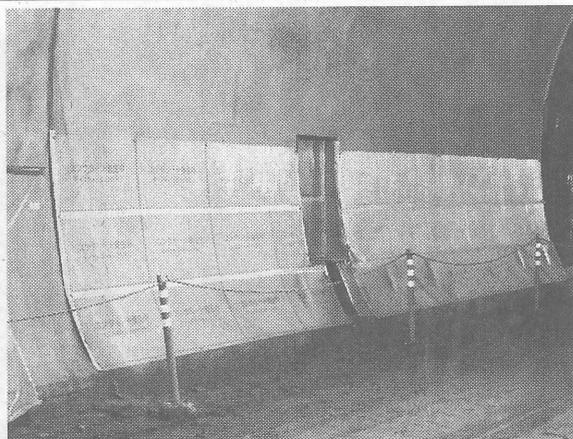
NETISには6月17日付で登録された。場所打ちコンクリートは通常、型枠を存置して一定の養生期間を置き、強度や品質を確保する。今回登録された技術は、型枠支保工の撤去に必要な強度が得られた時点で型枠

を撤去し、その後の必要な養生期間はMTPをコンクリート表面に貼って対応する。

MTPは、梱包用のプチプチシートを改良。通常の2層構造から3層構造にし、ポリエチレンを白色にしたことで、均一な保温性能を確保した。片面には接着性能を付与。離型紙を剥がすだけで、簡単にコンクリート表面に貼ることができ

ていない場合の透水・吸水試験では、貼っていない場合に比べ透水係数で約20～50%、影響深さで約20%改善された。コンクリート温度試験でも、外気温の急冷による表面温度の低下を10度近く抑制できたという。

養生期間中でもコンクリートの所定の強度が確認できれば、型枠を早期に脱型できるため、型枠の長期存置を解消できる。橋脚工のようなコンクリートを垂直打設する場合、同じ型枠を次の打



トンネルの覆工コンクリートの養生に使われた「モイスチャータックプチ（MTP）」

設場所に移動でき、打設後、長さ42枚のロール状で製品を納入する。昨年、製品を開発して以来、既にトンネル工事などで約1万平方メートルの採用実績がある。

東宏は、土木工事だけでなく、建築工事の汚れ防止材などでも売り込む方針で、本年度10万平方メートル程度の販売を目指している。